

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	山田 祐介
論文担当者	主査 石原 正治
	副査 長谷川 誠紀
	副査 木島 貴志
学位論文名	抗ドナー抗体陽性腎移植レシピエントに対する腎移植前脱感作を目的とした低用量ガンマグロブリン療法 (IVIG 療法) の有用性の検討
論文審査の結果の要旨	
<p>本研究の目的は腎移植における急性抗体関連拒絶反応 (acute antibody-mediated rejection: AAMR) の予防と治療におけるガンマグロブリン治療 (IVIG 療法) の有用性と安全性を評価することである。対象は腎移植前のリンパ球クロスマッチで陽性を示し、高力価の移植前抗ドナー特異的 HLA 抗体 (donor specific anti-HLA antibodies: DSA) が強陽性であったレシピエント 9 例、うち 6 例にリツキシマブ、免疫抑制剤、血漿交換による脱感作療法に低用量 IVIG を加え (IVIG 群)、3 例では IVIG を行わなかった (非 IVIG 群)。脱感作療法後の抗体価が基準以下 (MESF 値 3000) に低下したことを確認してから移植を実施した。評価項目は脱感作療法前後の抗ドナー抗体価、移植実施の可否、脱感作療法の有害事象、移植後 AAMR の有無、移植腎機能とし後方視的に検討した。IVIG 群では脱感作療法で 6 例全例が MESF 値 3000 以下となったため腎移植を施行したが、非 IVIG 群では 3 例全例で DSA が基準値まで低下せず腎移植を断念した。移植後 6 例中 2 例に AAMR を認めたが拒絶反応治療で軽快した。腎移植後 3 ヶ月の血清 Cr は 0.85 ± 0.2 ($0.51 \sim 1.04$) mg/dl と良好で、全例生着生存した。IVIG 群の 1 例で脱感作療法中にニューモシスチス肺炎を併発した他は副作用を認めなかった。以上の結果より、本治療は抗ドナー抗体陽性レシピエントにとって安全で有意義な治療となる可能性が示唆された。本研究の成果は腎移植における AAMR の予防と治療に関して重要な知見を与えるものと判断され、学位授与に値すると評価した。</p>	